



ここにこんな人が わたしの履歴書

(株)横山基礎工事 孝本 英俊
社長室長



孝本 英俊 (こうもとひでよし)
昭和42年 5月 3日兵庫県生まれ
平成 6年 1月(株)横山基礎工事入社
平成 6年10月社長室長に就任

■ 郷里・幼年時代・学生時代

本社がある兵庫県佐用町に生まれました。自然豊かな「星の都」と呼ばれる夜空が美しい山里で、深く神秘的な朝霧でも有名な大撫山に作られた県立西はりま天文台には、世界最大（一般公開用）の反射式天体望遠鏡「なゆた」があります。幼い頃は、落ち着きがなく、自転車に乗ると遠方に出かけ、なかなか家に帰らず家族からは鉄砲玉と呼ばれ、トラックや建設機械に憧れ、将来は運転手になりたいと思っていました。剣道の道場に通うようになり、そこで初めて横山社長と私の妻と出会うのですが、その当時、当社はまだ自動車整備が主体で、その後の建設業への進出や、また自分がお世話になることなど想像もできませんでした。ただその頃から社長には大変優しくして頂いたことを今も鮮明に覚えています。

大学時代は、専ら身体を動かし汗をかくアルバイトを選んで学生生活を送っていました。ただ、不思議なことに当時付き合い始めた妻から当社の携わる明石海峡大橋アンカレッジ基礎の話聞いても、建設業を一生の仕事として選ぶことは思いもよらなかった。実際の仕事のスケールの大きさや奥深さに触れ、そこに今のような大きなやりがいを実感するようになったのは、結婚を期に入社したそのずっと後のことです。

■ 郷里の被災で思う

2009年8月9日。佐用町は台風9号に起因する豪雨により被災しました。多くの尊い命、生活の場が失われ、近隣では現在も護岸復旧、改修などの工事が行われています。

私は入社後から、阪神淡路大震災、近年の新潟中越沖地震など多くの災害復旧の現場で施工に携わってきました。しかし、いざ自らが被災したそのとき、独りの人間にできることはあまりに少ない。あの日、自然の脅威に対する無力さを思い知らされると同時に、全国の皆様にご支援を頂きながら、炎天下泥にまみれ復旧作業を行い、建設業の使命の本当の大切さに気がきました。

■ 経営理念

「LIBRA工法」のような独自の新技術の発案・開発から基礎工事の難現場まで、当社の一貫した理念があり、それを一言でいうとすれば「常に、私たちに、今、与えられた社会的使命を果す」ということになると思います。

当社にとって、「社会的使命」とは誰かから与えられるのをただジッと待っているものではない。独りで作り出せるものでもない。それは、常に私たち一人ひとりの方から「今、自分にできること」が、「今、それを待ち望む相手」に明確に伝わった時に生まれ、結果を確実に手渡せた後にはじめて「与えられていた」と気付くもの。その使命を、「果す」とは、「社内・社外を問わず、まず、望んでくださる相手に対し、今、自らができることを伝え続け、そこで求められたことを最後までやり遂げる」こと。それら一つ一つ積み重ね続けていくことが信用となる。横山社長以下、社員全員的情熱を肌で感じながら、今も身に刻みつけている最中です。

また、「やり遂げる」、アイデアや約束の具体化のプロセスは、途切れることの無い、不具合の確認とその後の改良・改善の実践の繰り返し。そのときに、目の前の課題に対して「なぜ、それは起きたのか」、そして「ならば、解決のため自分には何ができるか」、固定観念や思い込みを捨ててじっくり考え答えを出し、素早く行動するよう、社員全員がお互いに声を掛け合い、実践しているところです。

■ 信条

・熱いプロセス ・スマートでシンプルな結果

■ 趣味

風を切る、そんなスピード感のある爽快なスポーツが趣味です。中でもスキーが大好きで、毎年営業車のフロントガラス越しに白銀の斜面が朝日に輝きを見つけると、身体の芯が疼きます。つい先日も、肺の奥まで冬の空気を一杯に吸い込みパワー全開で滑走したのですが、今、実は人影がまばらなグレンデが少し気になっています。三浦雄一郎さんが体現されているようにスキーは生涯を通じ自然と向き合い、その喜びを人と分かち合えるスポーツだと思います。再び、多くの皆さんにその魅力が伝わる機会があることを願っています。

■ 社員とのコミュニケーション

私自身に何か特別モットーがあるわけではありません。施工現場と一緒に作業して、お互いに感じたことを話す。

そこから始める。それが、専門工事業者の社員として最も大切で何物にも代え難いプロセスなのだと、最近改めて実感するようになりました。毎年世代交代は進み、今、後輩達の先頭に立つ私を含めたかつての「若手社員」一人ひとりは、自らの行動の責任の重さを痛感しています。だからこそ、現場の課題のひとつひとつに真っ直ぐに向き合い、与えられた使命を全うする、そのために、先輩・後輩と本音で話すことが必要になっているのだと思います。

■ 今後の展望

政治・経済の巨大なうねりの中建設業が節目に差し掛かり、再編・再生が課題とされる今日ですが、やはり、その課題も解決も、現在稼働中の現場、また今そこで働く人の間に在るのだと思います。

「適材が適所で最大限その能力を発揮できる職場」、働く人全てがそういう実感を持てるよう、様々な個性の社員の間、各々の役割の部署間にも壁を作らず、近づけ、つなげて行く。私が育ってきたその当社の社風を守り、広げながら、新しいことにチャレンジする。その過程で会社全体が、私自身を含め、更に成長できる、というのが理想です。

またこの度、当社ではそのような過程を経てLIBRA工法他のNETIS登録工法に加え、新たに河川内の橋梁下部の補強工事用の作業構台としてPHOENIX STAGE（フェニックス・ステージ）工法のご提供を始めました。「不死鳥」と名付けたこの新技術によれば6メートルを下回る桁下空間で作業構台を急速施工で構築でき、主要な幹線道路や鉄道の橋梁を補強し、再生する工事のお手伝いができます。

これからも当社は、確かな先進の技術で、歴史ある構造物を守り、そしてまた新しい日本の歴史を創るお手伝いをしたいと願っています。

(株)横山基礎工事 孝本 英俊

編集後記

協会ニュース発刊にあたり、執筆者の皆様にはご多忙のところご協力頂きまして誠に有難うございました。(編集分科会)